

科目名	異文化コミュニケーション論			ナンバリング	COM331	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	集中(前期)	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	菊池武	担当教員	菊池武				

授業の概要	欧米人と日本人が英語を用いてコミュニケーションを図る際に生じる様々な問題の具体的な事例を主として取り上げることにより、言葉の機能とその背景にある日本および欧米社会のそれぞれの考え方について体験的に理解を深め、異文化コミュニケーションについて、言葉の使い方のみならず、心的態度も体得できるように配慮する。						
到達目標	自国にいながらも異文化と触れることが日常的になりつつある現代において、異文化コミュニケーションが重要度を増しているのは地方都市においても例外ではない。そのような現状を踏まえ、本講義では、異文化コミュニケーションを構成する要素、異文化コミュニケーションのための心的態度を中心的な内容として取り上げ、自らの個性を育みつつも、他者と円滑に社会生活を営むためには何が必要なのかというテーマについて主体的にまた体験的に考え、意見を述べることをすることを目的とする。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	必ず授業前に所定の箇所を読み、自分なりの意見をまとめて、授業に参加すること。問題意識を持って、積極的に授業に参加することが望まれる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
異文化コミュニケーションの重要性を認識し、体験的に理解を深め、心的態度を体得できる。	異文化コミュニケーションの重要性を認識し、体験的に理解を深め、心的態度を体得したうえで、幅広い視点から異文化コミュニケーションについて考え、自らの実際のコミュニケーションにおいてに効果的に反映することができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		20%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		40%
授業態度・授業への参加			○	○			40%

課題、評価のフィードバック	授業内の発表においては、他の学生とともに講評を行う。毎回の課題については適宜コメントを与える。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	「この間はどうも……」	感謝の気持ちの表現	
	第2回	「すみません」	謝罪の表現	
	第3回	「なにもありませんが……」 「じゃあ、れすとらんにいきましょう！」	謙讓表現	
	第4回	「どうぞよろしく」 「こちらこそ」	日本式の挨拶を英語で表現するむずかしさ	
	第5回	「どうして子どもがないの？ご利益がある寺におねがいしたら？」	プライベートな質問に関する問題	
	第6回	「一杯飲みに行きませんか。忙しいって何の用？」	誘い方・断り方の表現	
	第7回	「夜遅くまで、ご熱心な練習ですこと。……」	苦情の述べ方	
	第8回	「イエスですか、ノーですか」 『お茶をもう一杯どうぞ』	婉曲表現	
	第9回	「ご意見をどうぞ」 「お骨折りに感謝いたします」	建前と本音の考え方	
	第10回	「窓を開けてもいいですか？」 「……」(私一人に聞かれても答えられないわ)	「責任回避」と「自主性の欠如」	
	第11回	根回し(1)	「根回し」について考える	
	第12回	根回し(2)	時間の概念	
	第13回	酒とコミュニケーション(1)	酒とコミュニケーション	
	第14回	酒とコミュニケーション(2)	外国人のカルチャーショック	
	第15回	異文化間のコミュニケーション	異文化間のコミュニケーションを促進するために	
	試験	期末試験は実施しない。		
授業の進め方		予習を前提とし、各回ごとに担当を決め、内容についてのまとめと自分の意見を発表する。授業内ではそれをもとに相互に意見を交換し、議論を深める。		
授業外学習の指示		毎回の内容についての振り返りをまとめ提出する。その際に、現在の自分の置かれている状況についても考え、教科書の内容と自分の状況との関連を考えることを習慣とすること。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	欧米人が沈黙するとき―異文化間のコミュニケーション― 直塚玲子 著 大修館書店
参考書	適宜指示する。
参考URLなど	
その他	